

『非文字資料研究』への寄稿について

人類文化の研究は、人間それ自身と人間が織り成す社会を研究することを目的とするが、その研究は文字で表現された資料を主な対象として行われてきた。しかし、人間の活動とその結果生み出されるものは、文字で記録されたものに止まらない。絵画・写真・映画・建築・民具・音声などの形で記録されたり、地形や景観あるいは人間の身体それ自身に刻み込まれたりもする。さらに、匂い・しぐさ・味覚・感触など「記録化」することが難しいものも、人類文化を構成する大事な要素である。

非文字資料研究センターは、そのような文字以外の記録及び文字では表現されにくい人間の諸活動を「非文字資料」として体系化し、それを研究する新しい方法を開発し、より包括的な人間と文化の理解にいたることを目指している。21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」(2003-2007年度)以来、わたしどもは、その目的を達成するために<図像><身体技法><環境・景観>のなかから研究課題を絞り込み、共同研究を展開してきた。この共同研究は、歴史学・民俗学はもとより、文化人類学、比較文化論、美術史、建築史、災害史、情報科学などを専門とする内外の研究者によって支えられてきた。

このように多様な学問的広がりをもつ非文字資料は、世界各国の地域文化の諸相を具体的かつ可視的に示す絶好の資料であるとともに、資料自体が多層的な時代・地域において蓄積されてきた背景をもっているため、研究方法としても比較歴史的な視点を求めるものであり、ひいては、人類文化研究の総合的・学際的な発展の可能性を有している。

しかし、研究資料の分析指標の設定、意味の解釈という困難な作業には、研究概念と成果の普遍性が求められる。また世界共通の標準的・普遍的な研究資料の資料化・体系化を行うには、世界各地の関連学問分野の研究者による相互検証が不可欠である。本センターの研究活動においても、関係研究者との共同作業を必要としている。

『非文字資料研究』は、世界の各地域において活躍されている非文字資料研究者からの寄稿を歓迎し、本誌が多分野にわたる研究者相互の学問的遭遇の場として発展するとともに、人類文化の豊かな研究に寄与することを期待する。

寄稿をご希望の方は、当センターのホームページをご覧ください、執筆要項等の詳細をご確認ください。

エントリー募集期間：前期 1月～3月 後期 7月～9月

原稿締め切り：前期 3月末 後期 9月末

※原稿ご提出後、査読があります。

エントリー用紙：当センターのホームページよりダウンロードしてください。

執筆要項：当センターのホームページよりご確認ください。

表記・書式細目：当センターのホームページよりご確認ください。

エントリーシートの提出・お問い合わせ先：非文字資料研究センター

E-mail: himoji-info@kanagawa-u.ac.jp

ホームページ：<http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/>

運営委員会

2020年度

- 第1回 2020年4月22日 (1)2019年度決算報告について(2)2020年度予算(案)について(3)2020年度特別予算について(通知2020年3月25日付)(4)2020年度「奨励研究」制度の継続実施について(お願い)(5)センター研究員人事について(客員研究員1件、研究協力者1件)(6)スタンフォード大学フーヴァー研究所からの企画について(7)日本常民文化研究所 Facebook、Twitterの公式アカウントへの参加について
- 第2回 2020年5月27日 (1)2019年度決算報告について(2)2020年度予算(配分案)について(3)「非文字資料研究に飛び立つ—海外招聘派遣事業報告集—」の神奈川大学学術機関リポジトリへの登録に伴う許諾処理の遡及手続きについて(4)Zoom研究会の開催の運用と謝礼等の支払いについて(案)
- 第3回 2020年6月24日 (1)非文字資料研究センター調査委員会からの調査結果について(2)2020年度海外提携研究機関との招聘・派遣事業について(3)『マルチ言語版絵巻物による日本常民生活絵引』編集再稼働について
- 第4回 2020年7月29日 (1)センター研究員人事について(新規研究員3名)(2)論文不正に対する処分内規(案)(3)2019年度奨励研究成果論文の査読分担について
- 第5回 2020年9月30日 (1)論文不正に対する処分内規(案)(2)奨励研究制度の継続願いに対する回答について(3)JASSO海外留学支援制度について(4)センター研究員人事について(新規研究員1名)(5)非文字資料研究叢書4について
- 第6回 2020年10月28日 (1)2020年度予算執行状況について(全体)/2020年度共同研究班別(2)2021年度予算(案)について(3)「2020年度共同研究費」予算の追加および返上申請について(4)論文不正に対する処分内規(案)について(5)セインズベリー日本藝術研究所との覚書更新に際する新規提案について(6)「非文字資料研究」22号投稿論文(河野通明先生)の査読者選出について
- 第7回 2020年11月25日 (1)論文不正に対する処分内規について(2)論文不正に対する調査委員会内規について
- 第8回 2020年12月23日 (1)二重投稿論文に対する処分について(2)セインズベリー日本藝術研究所への招聘・派遣事業の打診について
- 第9回 2021年1月27日 (1)2021年度研究班体制(人事委嘱手続き)について(2)論文不正に対する処分内規(案)について(3)論文不正に対する調査委員会内規(案)について

研究員会議

2020年度

- 第1回 2020年4月22日 (1)2019年度決算報告について(2)2020年度予算(案)について(3)2020年度特別予算について(通知2020年3月25日付)(4)2020年度「奨励研究」制度の継続実施について(お願い)(5)センター研究員人事について(客員研究員1件、研究協力者1件)(6)スタンフォード大学フーヴァー研究所からの企画について(7)日本常民文化研究所 Facebook、Twitterの公式アカウントへの参加について
- 第2回 2020年5月27日 (1)2019年度決算報告について(2)2020年度予算配分(案)について(3)「非文字資料研究に飛び立つ—海外招聘派遣事業報告集—」の神奈川大学学術機関リポジトリへの登録に伴う許諾処理の遡及手続きについて(4)Zoom研究会の開催の運用と謝礼等の支払いについて(案)
- 第3回 2020年7月29日 (1)センター研究員人事について(新規研究員3名)
- 第4回 2020年10月28日 (1)2020年度予算執行状況について(全体)/2020年度共同研究班別(2)2021年度予算(案)について(3)「2020年度共同研究費」予算の追加および返上申請について(4)研究員人事(新規登録)について(5)論文不正に対する処分内規(案)について(6)セインズベリー日本藝術研究所との覚書更新に際する新規提案について
- 第5回 2021年1月27日 (1)2021年度研究班体制(人事委嘱手続き)について

研究会

研究班研究会

2020年度

第2班 中国近世・近代における生活・風俗の研究

2021年2月19日 (Zoom会議)

第3班 〈メディア〉と〈身体〉から見る20世紀ヨーロッパのポピュラー・カルチャー

2020年9月1日 (Zoom会議)

第4班 東アジア開港場 (租界と居留地) における都市の発展と建築調査

第64回研究会 2020年5月14日 (Zoom会議)

第65回研究会 2020年7月18日 (同上)

第66回研究会 2020年8月26日 (同上)

第67回研究会 2020年10月30日 (同上)

第68回研究会 2020年12月18日 (同上)

第69回研究会 2021年2月19日 (同上)

第70回研究会 2021年3月19日 (同上)

第5班 「帝国日本」境界の祭祀再編と海外神社

2020年8月29日、10月3日 (両日共 Zoom 会議)

現地調査

2020年度

調査テーマ	日程	場所	調査メンバー
戦時下日本の国策紙芝居研究	2020年11月6日～11月7日	浅間縄文 ミュージアム	大串 潤児
中国近世・近代における生活・ 風俗の研究	2020年11月27日～28日	大阪大学総合学術 博物館	中林 広一
戦時下日本の国策紙芝居研究	2020年11月29日	川越市立博物館、 小山市立博物館	大串潤児・原田広・ 新垣夢乃

編集後記

今号で報告された研究会は2020年度前半に行われたものが中心ですが、いずれもオンラインで行われたものとなりました。2020年から世界を席卷しているCovid-19により、フィールドワークを基調とする研究や、研究者どうしの交流は困難な状況に直面しています。しかしこうした逆境の中でも、本センターの研究会が続行されていることが確認できるとともに、スライドフィルムや絵はがきといった資料の紹介・分析は、こうした時期だからこそ腰を据えてできる研究であると思います。2編の研究エッセイは非文字資料研究の広がりを感じさせてくれます。時代に翻弄されることなく、着実に歩を進めている非文字資料研究に、これからもご注目ください。

なお、末筆ながら「非文字資料研究センター」の英語名について、運営委員会での検討の結果、Research Center for Nonwritten Cultural Materialsを正式名称とすることにいたしました。一方、News Letterをはじめ、The Research Center...という表記も見られますが、すでにこの名称で流通しているものについては、そのままの形とさせていただくことになりました。今後、国際的な情報発信の際にご留意いただければ幸いです。(熊谷謙介)

表紙紹介

表紙の写真は、高木幹朗研究室が横浜の河川・運河を撮影したスライドフィルムの一枚で、1976年ごろの派大岡川を写したものです(資料番号:T-76-74)。派大岡川は、幕末の太田屋新田(現在の関内地区の一部)の開墾によって形成された河川で、水路として利用されました。画像右手に見える建物は中区吉浜町にあった横浜掖済会病院です。1896年に桜木町の横浜海員寄宿所内に誕生した医療施設を前進とする横浜掖済会病院は、1911年に此処に移りました。画像奥に見える橋は、堀川に架かる「西の橋」です。西の橋は関東大震災の復興事業で1926年にこの場所に架け替えられ、現在に至ります。画像からは、西の橋の上流で派大岡川と中村川が合流している様子がわかります。この写真が撮られた後、1977年に派大岡川は埋め立てられ、首都高速道路の建設が進みます。1981年には横浜掖済会病院が移転。1980年代には西の橋の上空に首都高速道路が架かります。写真は、現在では首都高速道路に覆われてしまったこの付近が、確かに河川運河だったことを伝えています。(松本和樹)